

日常×写真直真を共有しよう

アオスタ「アテッサ」ならできる3つの理由

正面右には最近主流のトラペザー三脚を収納できる。もちろん折りたたみ傘やサーモボトルなど日常の小物にも利便が高い。



Tripod & Drink, Umbrella

カメラバッグに見えないことが最大の長だ

カメラバッグを語る時、まずはそこに入れるモノ、つまりカメラや機材のトレンドに着目する必要がある。フィルム時代はフィルムが大きいほど撮影画像は精細に記録されることから、山岳写真でも中判や4×5カメラを使ったり、街中のスナップでも6×4.5を持ち出すなど、どうしても機材は大きく重くなっていた。ひるがえってデジタルの現在である。一眼レフタイプすら「大きい」とされ、大げさに言えば写真趣味人のほとんどはミラーレスカメラを愛機とするほどとなった。そんな今時勢に必要な

カメラバッグとはどんなスタイルなのか。

アオスタの新作「アテッサ」を手がけたバッグデザイナー柄澤裕二さん(ケンコートキナー)のこたえは、「二見していかにもカメラバッグと感じないデザイン。しかしミラーレス機材収納の利便性をしっかりと有している高機能性。つまりは通勤通学にも、サイクリングでも、そしてもちろん撮影趣味人も活用できる日常性のあるカメラバッグとなるのか。〜実感ではカメラバッグの7割はリュックが売れている〜と語る柄澤さんの言葉を体現するように新作はリュック型とされ、その下部に機材用ボックスを、また側方にはトラペ

これがアテッサの

カメラバッグを日常のツールに使いたい……1989年に産声を上げたバッグブランド「アオスタ」の最新作は通勤も撮影行もたくみにこなすマルチな1本。ひらめきの収納術とそのスマートな使い勝手を検証しよう。写真/油料康司(WPP) 文/モノマガジン編集部

ラー三脚が入る収納、対面には機材ボックスにアクセスできるドアを設け、撮影者の利便を向上させている。機材用ボックスにはレンズを装着したミラーレスカメラ+交換レンズ2本がはいり、しかも中仕切りに屈曲性をもたせることにより奥のレンズでも出し入れ自在とした。

小さく軽く、しかし高性能となったミラーレスには、これまでとは違う、スマートなカメラバッグが必要なのだ。

アイデア!

奥のレンズにも楽々届く

機材すべてをサイドドアから出し入れできるようボックスの仕切りに屈曲性を持たせた。奥のレンズの出し入れも楽々だ!



魔収納

カメラの転落をふせぐ仕切り部

スマート&クール

流行のボックスフォルム、ブラックの濃淡で表現された製品名など、まずバッグとしてのスマートなたたずまいにこだわった。高機能にして手頃な価格も魅力だ。

2,

3層構造でタフ!

デザイン

流行のボックスフォルム、ブラックの濃淡で表現された製品名など、まずバッグとしてのスマートなたたずまいにこだわった。高機能にして手頃な価格も魅力だ。

1,

サイドアクセスが神がかかり便利

アオスタ/アテッサ

ミラーレスの機動性を最大限に活かすカメラリュック。製品名はイタリア中部の風光明媚な地名からとられた。価格1万2800円。



前、側面にポケット、モールを備えニーズに対応/背面は通気性あるクッション素材を採用/チェストストラップ付で左右にずれにくい/ショルダーは格納できトートタイプとしても使える



カメラバッグ

